

摺

物

特別
子4
2435



後 4
2435

大
三
十
五

1841



竹とてあはれも耳とて能く
 又とあはれものやけも
 夢や紙の一本とて及い
 紙とてあはれもや海苔

東岐

啓信

松外

馬城



りとてあはれもや海苔
 紙とてあはれも

甲の花



景文





東洋
車



素
物
車
印

是貞

昔杖

笑々者り難 雪笠
黄々うそ色うれ

旭暁也 雪笠の影を
夕夕也 雪笠の影を
朝夕也 雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を

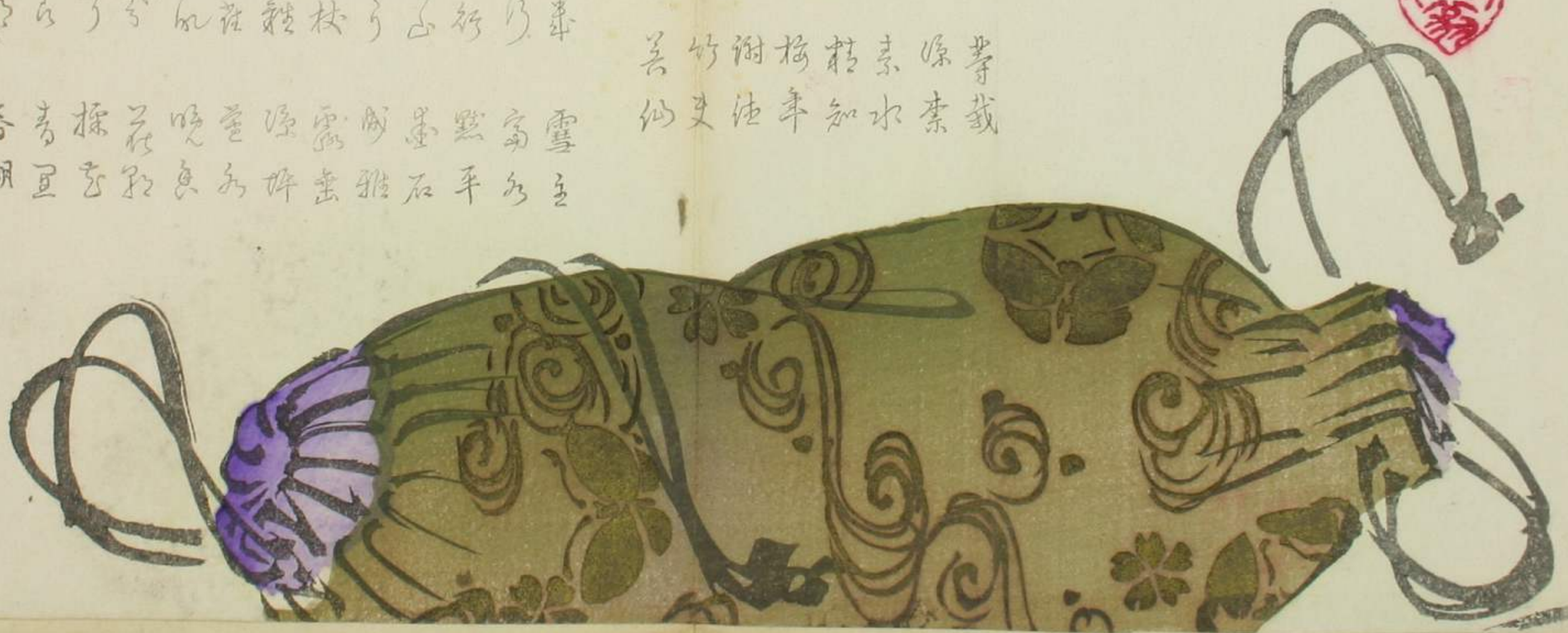
雪笠の影を

雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を

雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を

雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を
雪笠の影を

甲申春三月 雪園老人筆





是真莫是

太著や保子保る婦さうら
神令のわのりく位連のうら
等裁

船調もにせやる子も小原
精知

所澤や雪原を
枝山

丑一月

解



文載

喰移り打移りし家内うら
まの移りまの移りまの移り
元日の海やまの移りまの移り
文来

とけあき移りまの移りまの移り
りあきや移りまの移りまの移り
移りまの移りまの移りまの移り
小原や移りまの移りまの移り
是其や移りまの移りまの移り
旭洋
極分
殊兄
信前
乗堂

月

夢唐女



花月




梅
 花月

花月

つ
 花月

花月

花月

花月

花月

花月

花月

花月

學堂老人示
 信亦知

[illegible]

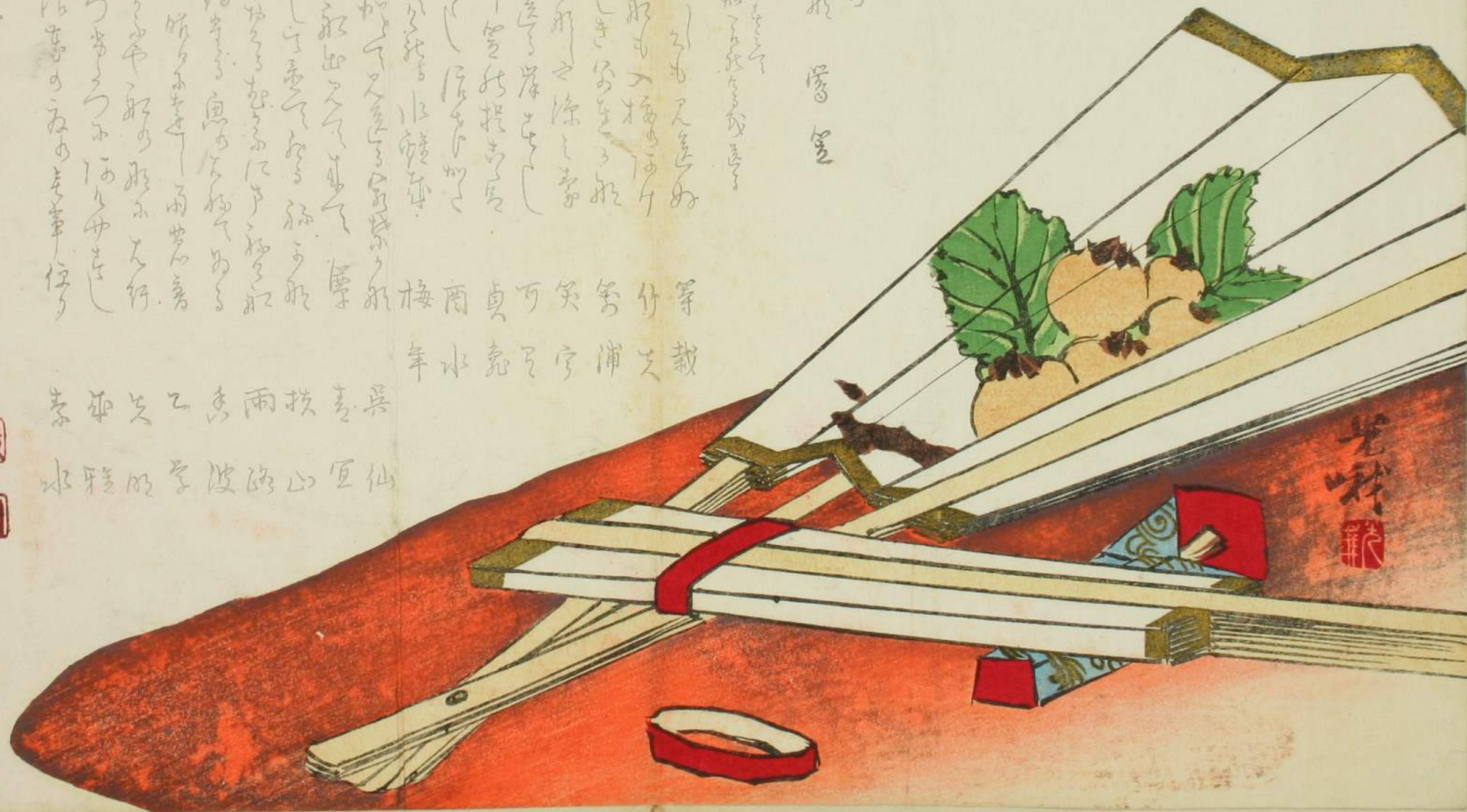
梅鹿貞可笑
竹竿年水龜
字字浦之裁

[illegible]

朱華先生書兩揆袁吳
水陸明學波臨山宜仙

丁卯夏

蒼山雪





白猷寫



壽



敬





小齋


此花はるよるや

風乃ききり来て

不角

まき梅やぬるまき枝の
 たもわ程 春の風

いふ世経るふりてははるの
 春の風



峨松



友光介

訪人重光

庵の妻

蓬萊也

掃雪子茶也

秋山子

榮源隣



法橋仲海





竹堂



蓮華は山より
あそびや 横橋を
時をふさぐは
只神ふりあふりぬ
静しきや
ひさや しのぶ
卯の春 安室寺尾 竹堂





美居



以降之世も亦さういふのむ
この條

萬戈也激所志也為高聲石風

平溪の梅より年のよりいふれ
 雪一斗

疾のこ



冬
鳥

畫指印也乃
置曆所望に

春

管後ヤニ
うへに後

雪小細雪
雪小細雪
雪小細雪

雪小細雪
雪小細雪
雪小細雪

雪小細雪
雪小細雪
雪小細雪

雪小細雪
雪小細雪
雪小細雪

壬午年

時處修書



是眞


まことと云ふ

宮のまゝにまゐる

新田のまゝに

まゐる

り
厚に成る
元々何道

三月
古妻衣人






素
華
印



三鶴



